

現場からの提言

生徒を

「学び」へと

向かわせるために

大学などに進学する者、あるいは就職する者。卒業後の進路は違っても、高校生に求められる力は、自立し、学び続ける力だ。その育成に向けた覚悟と熱い思いを、学校現場にうかがった。

テーマ1

高校が抱える課題は何か

生徒に「目標をしっかりと持たせる」ことが出来ているか？

・神田芳文先生

川辺高校の学区では、近年ほとんどの高校で定員割れが続いています。多くの生徒にとって、もはや高校は、頑張らないと合格出来ないものではないです。そのため、目標に向かって計画的に学習した経験が乏しく、自分で考えて動くことが苦手です。だから、大学入試でも直前にならないとエンジンがかからない。素直で、あいさつもきちんと出

来、ボランティアにも積極的、良いところもたくさんあります。ただ、そこそこ頑張つて、そこそこの目標を達成すれば満足だと自分を過小評価する生徒が増えた気がします。

そんな生徒に対して、私たちには「目標をしっかりと持たせる」ことが何より求められています。生徒と話す中で、進路でも学習でも常に上を目指し、挑戦したくなるように、教

師が意識的に働きかけることが必要です。これは、私がかつて勤務した伝統校でも同じだと思います。

生徒が上を目指したくなるようにするには、「授業を面白くすること」が大前提で、そのためには教師の授業力を高める必要があります。生徒の学力は多様化していますから、授業で一斉に教え、個別に育てるという流れに沿って、より重層的な指導

自信を持ってない生徒を「是認

してはいないか？

・水野謙二先生

最近の生徒を見て感じるのには、彼らが自信を持ってないことで

す。中学校時代に成功体験が少ない場合は特にそうですが、勉強も部活



岩手県立久慈高校副校長
鈴木晃彦 Suzuki Tenhiko
英語科。盛岡第一高校進路指導主事などを経て現職。



愛知県立御津高校校長
水野謙二 Mizuno Kenji
英語科。岡崎高校進路指導部長などを経て現職。



鹿児島県立川辺高校校長
神田芳文 Kanda Yoshitami
国語科。鶴丸高校進路指導課主任、同教頭などを経て現職。

計画を準備しなければなりません。

生徒は、楽しくなければ絶対に学びに向きませんし、向かったとしても長続きしません。学びが楽しいから、難問にもぶつかっていきける。今の生徒は磨かれていない原石といえるかもしれません。原石のまま社会に送り出すのか、磨き上げ、内面に火をともして送り出すのか。今、教師の力が問われています。

動も、やれば出来るという気持ちで自分を信じて頑張り抜くことが少なくなっていると思います。

しかしそれは生徒だけの問題ではありません。生徒に自信を持たせる場であるはずの勉強と部活動とで、生徒を取り合うようなことを教師がしてはいないでしょうか。部活動と勉強は両方合わせって一人の生徒の成長に資するものです。両方頑張るのが当たり前であり、そのように努力する中で生徒は成長することを、教師こそ理解する必要があります。生徒とともにある指導の中で、そのことを実践させ、「やれば出来るんだ」と実感させることが、生徒の自信につながるのです。

これは進路選択でも同様です。生徒は、自分の現状に合わせてちよ

学びの感動を与える授業が出来ているか？

最近の生徒は主体性がないといわれます。しかし私は、生徒だけでなく、教師の主体性も自ら問うべき段

ど良いところを選び、進んでいこうとします。そして、教師もそれを是認している。しかし、それが本当に進路指導といえるのでしょうか。本人の適性を踏まえて、時には生徒自身が気が付かなかったような道を示し、挑戦させる中で自分に自信を持たせるのが高校の進路指導です。

教師一人ひとりには生徒のために努力しています。それをさらに学校全体としてうまく機能させるためには、高校として目指すべき生徒像を教師が共有し、指導の視点を合わせることが不可欠です。教師が集団として、ポジティブな目標を生徒に提示して、その実現のための地道な努力を支援する。そうした環境の中で、生徒はやる気を出し、自信を取り戻していくはずだと考えています。

鈴木晃彦先生

階に来ていると思います。久慈高校の若い先生方を見ると、個性豊かで、指導はとてもアクティブです。自己

を高めようとする意識も十分に伝わってきます。しかし、授業が生徒とのコラボレーションの中での感動に結び付いているか、生徒に学びの喜びとして伝わっているかといえ、まだ改善の余地はあると思います。

本校の英語科の目標は「ざっくり言えば生徒も教師も「感動しようぜ！」です。教師が教材研究の段階で感動しているか、感動を授業で伝える思いが備わっているか、客観的に検証することが必要です。それが教師に必要な主体性だと思えます。「あの先生のように、知を楽しむ人間になりたい」と生徒の心を震わせることが

出来れば、生徒はその後の進路も自律的に歩くことができるでしょう。

感動を与える授業とは、教師という仕事が好きで好きでたまらないという人間を通して伝導されたものが、生徒の力として根付いていることを、生徒自身が気付く授業です。そんな授業でこそ、自立した学習者を育てることができる。卒業後も自分の学び方、生き方を生徒が選び取っていきける力を、授業の中で身に付けさせることを、教師は今強く意識すべきでしょう。そして教師は「ノブレス・オブリージュ」(*)の精神を忘れてはいけません。

全国の先生方のご意見

◎高校生の多くが勉強をしておらず、生きていく上で必要な**基礎学力**が不足していると思う。それでいて大学に半数が進学するという現実。基礎学力の定着で、計画性・ねばり強さ・自己分析力・評価する力・質問するための会話力・自主性など諸々の能力が身に付くはずなのに。静岡県

◎最近、保護者が我が子かわいさから、つらいことや嫌なことから子どもを遠ざけようとする傾向が「受験」の面からでも多く見られる。子どもたちの将来を考えると良い傾向とは思えないので、家庭を離れた学校で「**困難に立ち向かう姿勢と問題解決能力**」を身に付けさせたい。富山県

◎人間関係も学習活動も、そして進路選択も、**自己理解**なくして前には進まないと思う。さまざまな活動の中で、挑戦し、失敗し、悩み、そして一つひとつ課題を克服して成長していくものだ。得意なこと、できることを見つけ、力を伸ばし、社会に貢献していくためにも、自己理解を促していくことは不可欠だろう。佐賀県

*ノブレス・オブリージュ(フランス語)「高い地位には責務が伴う」の意味

生徒とどう向き合うか

1年間の生徒の成長を俯瞰した指導をする

鈴木晃彦先生

教師という仕事は、確かに日々の

学習状況などをチェックする必要もあります。しかし、生徒のテストの点数が良ければそれでいいというわけではもちろんありません。私たちは、生徒の成長を俯瞰的に見るべきで、テストはその時の一つのベンチマークとして使われるものです。途中経過に右往左往せず、1年間を見通した感動を生徒に与えられるかを重視したいものです。教師自身が自立した教育者であれば、生徒の成績の変動にその都度うろたえることはないし、ましてや「生徒が悪い」と



は言わないはずですが。

私自身も「理想とする教師像である恩師を超えたい」という思いがあつて、今も努力しています。そういう気持ちがあるから、みんな教師を続けていっているのではないのでしょうか。だから私たちは、自分自身が学ぶことを楽しんで、生徒の前でパフォーマンスをしなければなりません。

生徒による授業評価も、単なる満足度調査に終わらせず、生徒の声にもっと耳を傾けないとならないと思います。そして、なぜ生徒が出来ないかだけではなく、真摯に自分の指導の有り様を検証すべきです。例えば、テストの成績は生徒の責任ではなく、教師の責任であるという意識を持つことも大切です。

教科書を教える、問題集を解かせて、週末課題を与える、そして点検して、機械的にハンコを押す。指導がその繰り返しになっているとしたら、

ら、教師自身の考えを大きく変えなければなりません。忙しくて全部を見るのが出来ないなら、一つの問題だけでもしっかりと見て、短くても

生徒との「語り込み」で、伸びしろを知る

神田芳文先生

今の高校生の進路観には、多様性を認めてよい部分と、普遍的でなければならぬ部分があることを念頭に置いて生徒と接したいものです。

例えば、法学部志望の生徒が、成績の伸び悩みを理由に医療系の専門学校に志望変更した場合、これは多様性ではなく、安易な選択を認めたらすぎません。自分がしたいことであれば、石にかじりついてでもその道を目指す姿勢が必要です。そのためには、自分を過小評価している生徒に、現実だけを直視させるのではなく、夢を持たせなければなりません。

現時点の力だけでなく、夢を持った時の伸びしろも見る。それが「担能力」だと私は思うのです。そしてそれは、生徒と「語り込む」ことで高まっていく力です。

ただ私は、「面談週間」など改ま

丁寧なコメントをする。そういう当たり前のことを通して、生徒は「この先生についていこう」と思うのではないのでしょうか。



った機会は、本来必要なのではないかと思っています。そんなことをしなくても、気になる生徒は授業後や昼休みに呼んで、話をすれば済むわけです。また私は、若手の先生には「清掃時は、目的意識を持って清掃場所に行ってください」とお願いしています。今日は誰と何を話そうかと考えてから清掃に行つてほしいのです。そして、かしまった雰囲気ではなく、一緒に掃除をしながら「部活動の練習はどう？」などとたわい

もない話を糸口に進路の話などをしていけば、それも立派な教育相談だと思っけています。そうすることで、生の生徒の状態が分かってくると思います。話そうと思えば、1か月で1人の生徒と2、3回は話せるはず。要は、

「生徒の未来」に対して責任を持つ

頑張らなくても選ばなければ大に行ける時代にあつて、生徒を学びに向かわせるために私たち教師はどうすればよいのでしょうか。

仮に推薦・AO入試が拡大し、学力試験を柱にした大学入試がなくなった時、これまでのように生徒を学習に向かわせることは出来なくなるのかと問われたら、すべての教師は「そんなことはない」と答えるでしょう。高校で勉強していることは、ものの学び方も含め、将来社会で生きていく上で必要な力の基盤になるものであり、大学で学問を修める際の基礎となるものです。だから入試でも問われるのです。私たち教

担任にその努力が出来るかどうか。学校は教材研究をする場ではなく、「生徒と向き合う場」だと私は信じています。若手の先生を中心に、自分分は本当に生徒のほうを向いているか、問い直していただきたいのです。

・水野謙二先生

師は、そういう力を養成することと、学ぶことの楽しさを実感させることを両立している、その自覚を持つことが第一歩だと思つています。

「生徒のために」という言葉を、私たちはよく口にします。広義では当然「目指すべき生徒像の実現のために」ということですが、こと進路面



全国の先生方のご意見

○義務教育ではないという原則と義務教育化している現実があるからこそ、「**学ぶ楽しさ**」に気付かせていくような教育をしなければならないと思う。北海道

○高校の3年間は子どもから大人へと変わる上でとても重要な時期である。個人差もまだまだ大きい。大きく育て切るには、**自主性の尊重と強制的なバランス**が重要だと思っている。茨城県

○大人になることは、自らの位置を知り、そこから未来に向けて自己や仕事を組み立てていく力を身に付けていくこと。その時に必要なのはいわゆる「**メタ**」の視点だ。その観点から見れば、高校現場でアウトプットの機会を多く作る必要がある。埼玉県

○合格実績など目に見えるものだけでなく、どれだけ生徒に「**気づき**」を与え、視野を広げてやれたか、どれだけ生徒を悩ませその悩みを成長につなげられたかなど、**内面の成長という目に見えないものこそ大切なもの**だと思う。滋賀県

では、「生徒が合格するために」という意味だけではありません。「生徒が伸びるために」「生徒の学力を高めて、学問を学べる力を身に付けるために」という意味でもあります。それゆえ、高校の学習で身に付けた力を使って、生徒が自分で成長していくことが出来た時、「生徒のため」の教育が実現したといえるのです。

そう考えていくと、私たちは「生徒の今」にだけ責任を負うのではなく、「生徒の未来」に対しても責任を負っているわけです。目の前の生徒の実態を把握しながらも、自分たちが育てたい生徒像を主軸に考えな

ければなりません。もしも推薦・AO入試で安易に進路を決めようとしている生徒がいた場合、その生徒の未来に対して責任を持つなら、教師はどう行動すべきか、それは明白なはずで

そのようなスタンスで指導する中で、教師が生徒の学力養成に真剣に取り組む、生徒に学ぶ喜びを実感させる努力をしていけば、たとえ小テストであつても、生徒は学びの達成感を味わい、学ぶことを楽しむようになっていきます。生徒も、自分力をつけてくれる先生から、楽しく学びたいと思つているのですから。

学校、教師はどう変わるかが出来るか

学校活動のすべてを連動させて生徒の活力を引き出す

水野謙二先生

御津高校では2009年12月、学
力向上委員会を立ち上げました。関
係する校務分掌と学年の中から10人
が参加しています。授業が分かり、
授業で力がつくことが実感できてこ
その高校生活です。授業が楽しくな
れば、部活動などにも良い影響を与
えます。つまり、生徒に自信を与え、
元気を出させるための授業改善であ
り、学力向上委員会の立ち上げです。
委員会では、さまざまな角度から
生徒の自信回復の方法論が話し合わ
れています。例えば、「学ぶことが
楽しく、家庭での予習復習に結び付
くような授業にしよう」「英検や漢
検など資格取得を奨励し、合格した
人は全校生徒の前で表彰しよう」な
どです。部活動も一層奨励していま
す。先輩や仲間にもまれ、自分はこ
の部に不可欠な一員で、辞めたら他
の部員に迷惑をかけるという意識を
持たせ、それを自分の自信へとつな



げる。個々の生徒の頑張りをみんな
で認める雰囲気と制度をつくり、全
体の活性化としてつなげています。

特に、中学校時代に成功体験の少
なかつた生徒にとつては、これら「自
信を持たせる指導」が、分断される
ことなく、連続して存在することが
大切です。委員会の発案は私がしま
したが、運用していく中でこのアイデ
アは関係する教師からのものです。
委員会の検討内容をさらに教科や関
係分掌でもんでいく過程で、学校全
体を巻き込み、生徒の活力を生み出
す力が動き始めたと感じています。

地域の清掃ボランティアにも積極
的に取り組んでいます。昨年、「チ
ーム御津高」の文字が入ったウイン
ドブレーカーを同窓会にお願いして
60着作りました。学校の名前を背負
った生徒が、自分たちが出来ること

ベテラン教師が率先してコーチングを

鈴木晃彦先生

生徒の学習意欲を高めるために最
も求められているのは、授業力の向
上です。では、どのような方法で授
業力を高めるのか。私は、ベテラン
の教師が意識的に若い教師に自分の
授業を見せることが大切だと思っ
ています。つまり「コーチング」です。

そこには、若い教師のためだけに
はなく、むしろ自分をさらけ出すこ
とによってベテラン自身の授業力も
向上させる狙いがあります。私自身
意を決して「自分の授業を見てもら
えないか。声が欲しい」と若い先生
を誘うようにしています。また、本
校では校長の発案で授業を映像記録
に残しています。授業力は人の目に
さらして初めて向上します。模範的
な授業を「見ているだけ」では授業

で地域に貢献し、自信を深めていく。
すると、地域の人たちにも今まで以
上にきちんとあいさつが出来るよう
になります。学校、地域で、自分の
存在を認めてもらい、学校全体が元
気になることを目指しています。

力は向上しません。「真似る。そし
て工夫する」ことが不可欠です。
授業がうまくいけば、生活指導、
進路指導にも連動していくと信じて
います。授業が成功すれば、生徒を
自ら学ぶ「自立した学習者（人間）」
に出来る。学校がすべき最も重要な
保証は、これではないでしょうか。

いろいろな経験、価値観の先生が
チームになっっているのが学校です。





私たちは「忙しくて生徒との時間が取れなくなった」と口にします。確かに多忙は事実ですが、その中に

生徒のせいにはせず、責任を持つのは教師という自覚を

・神田芳文先生

ベテラン、管理職が意識してプラスの方向に自分の姿をさらけ出すことが集団の力になります。若い先生にとつて時には疎ましく思えるかもしれませんが、長い目で見れば、それは必ずプラスになります。何より、若い先生自身が自分の教師としての成長を俯瞰的に見ることが出来れば、きつと受け入れられるはず。ベテランも若手もお互いをさらけ出し、自分の授業をどう思うか、学

校の指導は昨年度と同じでよいのか、お互いに意見を求め合えば、教師の意欲は一層高まるでしょう。

生徒も教師も、長いスパンでどこかで花開けばよい。教育では、拙速に答えを出すのが良いとは限りません。生徒に対して、また教師同士でも、すぐに答えを求めすぎではないでしょうか。私たちは、もつとじっくり生徒たちを見つめ、悩み、答えを探していくべきだと思うのです。

あつても生徒と向き合う時間はやはり確保しなければならぬ。そのためには、これまで以上に先を見通して仕事を進めることが教師には求められると思います。1週間先に模試が、1か月後に期末考査があるといったことは、年間計画表を見れば分かることなのに、行事の直前になって慌ただしく動いていることがよくあります。私は30代前半で初めて学年主任を務めた時、先輩に「常に2、

全国の先生方のご意見

◎高校教育の現状は「初等教育後期」。高い進学率の中、**学びの意味を時間をかけて教えられる最後の機会**だ。これは、細分化された大学のシステムでは無理だろう。社会が流動化し、教育が手段化（例えば、大学選びは就活の準備という発想）する中、学びの意味が矮小化し、国家的問題に発展するのはと危機感を抱いている。福島県

◎中学校の先生方と高校教師との連携が必要。特に、教科レベルで密な連携がほしい。多様な生徒がいる中学校の事情を踏まえ、高校現場についても知ってもらうことが大切だ。新潟県

◎社会で共生する力（協調性、思いやりなど）を育成することと、そのための普遍的な力（コミュニケーション能力や思考力など）を付けていくこと。また、社会の中で力強く生きる力を鍛えていくことも大切。「**社会との接続と、そのための人材育成としてのキャリア教育**」が必要だ。授業も部活動も進路指導もその一環であり、受験勉強もその観点でとらえている。三重県

3週間先を見なさい」と言われました。前もって出来ることをしておけば、忙殺されることも少ないのではないのでしょうか。パソコンが入ったぶん、昔と比べて楽になった作業も間違いなくあるのですから。

教師一人ひとりが意識を変えながら、学校としての授業力向上の取り組みも必要です。本校では2010年度から地元中学校と連携した教科研究会をスタートさせようと考えています。これまでも小中高連携で公開授業などを行ってきましたが、更に進めて定期テストの問題をお互いに見ることで、双方の授業改善、授

業力向上に役立つと期待しています。特に、若い先生方には、学ぶ機会と多くなるはず。私は、今の子どもたちに学習意欲

がないとは思っていません。教養系のクイズ番組が人気を集め、「歴女」という言葉がはやるなど、学びが面白ければ生徒はついてくることはむしろ明らかです。もしかすると、我々が原石を磨いていないのではないのでしょうか。もはや、「生徒が悪い」では学校は変わりません。まず教師が自分を振り返らないと。生徒は、教師を選べません。ならば責任を持つのは、教師であるべきです。